

あかしびと 夏季号(103号) 2021年7月発行

日本バプテスト同盟金沢文庫キリスト教会 〒2360046 横浜市金沢区釜利谷西3-36-20

牧師 森島牧人・森島 恵 電話 045-783-5475

[mail:church.kanazawabunko@gmail.com](mailto:church.kanazawabunko@gmail.com)

[http:// kanazawabunkochurch.sun.bindcloud.jp](http://kanazawabunkochurch.sun.bindcloud.jp)

「祈りとは、ゆだねる力」

森島 牧人 牧師



礼拝をはじめとして、キリスト者の集まりに参加すると、かならず祈りの時があります。一日のはじめに祈り、一日の終わりにもまた祈ります。また会議に

においても祈りで始まり、祈りで閉じられます。さて、私たちにとって、祈りとは一体何なのでしょう。祈りには何の効果があるのでしょうか。

問いで言われているとおり、キリスト者の生活は、祈りに始まり祈りに至る（終わるではない）と言えます。またその意味からすれば、祈りとは、感謝に始まって感謝に至る、キリスト者の生活のすべてであると言えます。

日本の風土の中では、御利益という言葉があるように、祈りは、まずその効果の面から計られてきました。しかし、祈りとは本来、効果を求めてするものではありません。内村鑑三が、「聴かれざる祈祷」という一文で教えているように、人間の願うところが必ずしも起こらず、失望と祈祷の力を疑うような危機的局面、つまり「祈りは聴かれなかった」という事実と「聴

かれぬる祈祷もある」という現実を知ることは、私たち人間にとって大切なことでもあるからです。

旧約聖書に出てくるヨブは、すべてを神に委ねて生きた人でしたが、その彼も神の御心が分からなくなったときがありました。その時彼は、徹底的に神に問い、神と語ろうとしました。このヨブの姿勢の中に、祈りの真実の姿が示されていると思います。先の内村鑑三の言葉にあるように、人は悩みの中ではじめて、祈るべき方、一切を委ねるべき方に一切を委ねることを、学ぶからです。

私の友人である神父が、「幸せは、あなたが数えられるだけ、あなたにあります」と語っていたのを思い出します。私たちの周りに起こるすべてのことを幸いと考えるのは難しいかもしれません。ついつい愚痴を言い、災いの数を数えて、ため息をついているのが、私たち人間だからです。しかし、少なくとも私たちが口に出して数えることの出来たその神の恵みは、確実にその数だけ私たちの上にあるのです。そして

同時にそれは、私たちの感謝の数であり、祈りの言葉、私たちの生きる勇気、私たちのゆだねる（信仰の）力に他なりません。

ですから私たちは、「災い」でなく「幸い」を数えましょう。「愚痴」でなく「感謝」をその唇に表しましょう。そうすると、あの暗い「ため息」は、喜びの「ため息」に変えられるのです。

「失望」が「希望」に変わるのです。神の恵みは常に、絶対値で表されるからです。もちろん祈りに上手下手などありません。



目 次

「祈りとは、ゆだねる力」	森島 牧人 牧師	p.1
「オレンジ色の小鳥が」	西山 律子	p.3
「出会いに感謝して」	高井 幾世	p.3
「出エジプト記を読んで」	白根 義輝	p.5
「コロナと私」	園田 洋子	p.6
「30年来のご縁とおみちびき」	森 敬子	p.8
「涙！神がくれた癒し」	白井 豊子	p.9
「今度はあなたが」	山田 三千江 神学生	p.10
「ギリシャ語の学びとミャンマー人神学生との出会い」	石川 万奈美	p.12
「約束の力」エルセンサン（ミャンマー人神学生）		p.14
「ミャンマーの神学生」	島田 正敏	p.17
「コロナ禍まん延中に学ぶ」	犬塚 志朗	p.18
「主の山に備えあり」今年度主題聖句	森島 恵 牧師	p.18
以下教会行事報告・編集後記		p.22～p.24

「オレンジ色の小鳥が！」

西山 律子

びっくり!! えっ!! オレンジ色の小鳥が巣をつくりました。窓の外の南天の枝の中に。多分ジョービタキだと思います。

それでジョージとタキという名前を付けました。はじめジョージは3時間くらい卵をあたたためて、その間にタキは食餌に出かけます。つぎにタキが卵をあたためます。その間に、ジョージが食餌と休憩に出かけます。



2～3週間経ったとき、タキとジョージは30分毎に交互に虫を採って来ます。

巣の中に小さなひなが、口をパクパクさせているのが見えました。

ある日の夕方ジョージとタキは巣の近くの梅の木で、寄り添って語り合っています。「よかったね。うちの子が大きくなって。大変だったけど。うれしいねー。ありがとう



タキ。ありがとうジョージ。」と言っている様でした。

それから神さまに、ピーピー賛美していました。次の日半日私たちが留守にして帰宅した時は、もういませんでした。

神さまのみ守りの中で子育てが終わったのです。ちょっと淋しいけれど、ジョージとタキ、ひなの旅立ちです。一カ月前、窓の側に南天の枝の葉陰に、雨風外敵から守られた所に、枯葉で上手に巣を作っていました。

卵をあたためる時は交替で、2時間も3時間も、飲まず食わずに。ひなになったら今度は30分おきに、新鮮な虫を採って来て、ひなに与えます。ひなが大きくなり自分で食べていけるようになったら、巣を離れ、親子三羽で涼しい森に帰って行きました。



「おめでとうタキ」「おめでとうジョージ」ハレルヤ!! 主を賛美します!!

「出会いに感謝して」

高井 幾世

去年はコロナ禍に乳がんと緑内障の手術のため3度入退院を繰り返しましたが、主は治療の道を備えてくださり、多くの方々に助けいただき祈っていただきました。神様が与えてくださった様々な出会いに支えられ今生かされていることを感謝します。目の手術で入院中も同室の方(Mさん)にとってもお世話になり、彼女の姿を通して人とのつながりの大切さを改

めて感じました。

Mさんは整形外科の手術を受けられた後退院が2か月も延び、やっと車椅子に乗れるようになったばかりで移動が大変そうでした。それでも入院初日の不安な面持ちの私に優しくきれいな声で話かけてくださり、病室の色々なルールやこれまで同室だった目の手術をされた

方達のご様子なども聞かせてくださり励ましてくれました。翌日手術を受けて目が見えにくい私を気遣って時間を教えてくれたり、テレビのニュースの内容なども伝えてくれたりしました。明るく前向きな方で思いやりと心の美しさがそのきれいな声に表れているようでした。魅力的な人というのは人を引きつけるのか、同室の他の方たちだけでなくお医者さんや看護師さん、スタッフの方達とも、また廊下では別のお部屋の方達とも（マスク着用、ソーシャルディスタンスを保ちつつ）短いながら親しくお話をされていました。その何気ない会話が私の心にも安らぎを与えてくれたのを思い出します。入院中の方は皆それぞれに痛みや不安を抱えつつ過ごしています。医療従事者の方々もコロナ下でご苦勞が多い日々であると思いますが、不思議とMさんの周りにはさわやかな風が吹いているようで皆笑顔なのです。私もその一人でした。

Mさんがクリスチャンかどうかはわかりませんが、心豊かな人は見ず知らずの人にも慰めを与えてくれるということを知り、彼女に教えてくれました。コロナ禍で人と人との関係が薄れ寂しさや喪失感を感じる今ですが、その中でも病床で出会ったMさんのように笑顔や明るさを少しでも周りに届けられたらと思います。しかし生来消極的で臆病な私は人との関わりがなかなか上手くできません。しかも心が狭く小さなことでもイライ

ラしたりまたクヨクヨしたりでダメなところ満載です。それでもなお「わたしの目にはあなたは高価で尊い」と受け入れ赦し励ましてくださる主に希望をいただき、心豊かな一歩を踏み出せればと願います。今与えていただいている命とこれまで出会ったすべての人に感謝して、自分だけでなく周りの方々を大切に、そして神様の恵みを共に分かち合えますようにと祈ります。



松田姉より母が昔いただいた絵手紙です。よく母を励ましてくださいました。この絵手紙の言葉のように生きていきたいと思う私です。

松田姉には夫が病気の時や子供が小さいときにも支えていただき感謝です。



「出エジプト記を読んで」

白根 義輝

昨年6月から1日2章ずつ旧約聖書を読み返し始めてから約1年、塵も積もれば山となるの諺通り、気が付けば1,000ページを超え、現在は箴言を味わっています。今年の4月から、新約聖書も2章ずつ読み始めました

創世記41章に、ヨセフがエジプトの王ファラオの夢を解き明かした有名な記述があります。その夢は、艶やかなよく肥えた7頭の雌牛が、貧弱でとても醜い痩せた7頭の雌牛に食い尽くされてしまうものでした。また、とてもよく実の入った7つの穂を、痩せ細り、実の入っていない干からびた7つの穂が飲み込んだ夢でした。大豊作の7年の後、国を滅ぼしてしまうほどの飢饉が7年間続くという意味でした。

それを聞いたファラオ王は、ヨセフをエジプトのナンバー2に命じ、来る飢饉に備える責任者にしたのです。

ヨセフは、豊作の7年の間、エジプトの国中の食糧をできるかぎり集めて蓄え、飢餓の7年間に備え、エジプトは元より、ヨセフの家族が住んでいたカナン地方の人々も救ったのです。

やがて、時が過ぎヨセフの功績も段々忘れられていき、ヨセフのことを知らない王がエジプトを支配するようになりました。

神様がヤコブに、あなたの子孫を繁栄させ、数を増やすと祝福された通り、イスラエルの人々が増え広がっていきました。

イスラエルの人々を恐怖に思った王様は、粘土こねやれんが焼など過酷な重労働に課し、更にヘブライ人として生まれた男の子はナイル川に放り込むよう命令したのです。イエス様が誕生された時、ヘロデ王が、ベツレヘムとその

周辺にいた2歳以下の男の子を全員殺させた記事を思い出します。

そんな時に、モーセが誕生しました。かわいかったので殺されずに済み、やがて成人しました。

モーセは神の山ホレブで、イスラエルの人々をエジプトから、広々とした乳と蜜の流れる土地に導き出すよう召命を受けたのです。

しかし、モーセは神様に逆らい、自分は弁が立たないのでほかの人を見つけてほしいと抵抗しましたが、神様は雄弁な兄弟アロンの存在を示され、二人のなすべきことを教えると言われました。更に、イスラエルの人々を神様の民とし、彼らの神となるとも言われたのです。

モーセとアロンは、エジプト王ファラオに、イスラエルの人々を去らせるよう説得しましたが、貴重な労働力を簡単には手放す訳がありません。そこで神様は、ナイル川の水を血に変えたり、蛙、ぶよ、あぶ、疫病などの10の災いをくだされたのです。

10番目の災いが、ファラオがイスラエルの人々に出エジプトを許す決定打となりました。

それは、神様がエジプトの国を巡り、国中の初子を撃たれ殺すことでした。しかし、イスラエルの人々が小羊を屠り、その血を家の入り口の2本の柱と鴨居に塗ると、神様は過ぎ越されると言われたのです。(過越しの祭りの起源)

バプテスマのヨハネがイエス様を見た時、「見よ、世の罪を取り除く神の小羊だ。」と言ったこと、イエス様が私たちの罪を赦すために十字架にかかれ、血を流されたことが浮かんできます。

いよいよ、エジプト脱出です。

主がアブラムに言われた、「あなたの子孫は異邦の国で寄留者となり、400年の間奴隷として仕え、苦しめられるであろう。しかしわたしは、彼らが奴隷として仕えるその国民を裁く。その後、彼らは多くの財産を携えて脱出するであろう。」と創世記15章13-14節に記されていることが成就したのです。

その後も、神様は多くの奇跡をなされイスラエルの人々をお救いになりました。しかし、人々はことあるごとに、「我々をエジプトから連れ出したのは、荒れ野で死なせるためか」と不平たらたらでした。

心変わりしたファラオの軍勢が迫ってきた時、海を2つに分けて救い、マナやうずらで養われ、喉が渴いた時には岩から水を出して渴きを癒されました。それほどの恵みを受けても、十戒が与えられても、金で雄牛の鑄造を造って拝みました。

私は若い時から、どんな奇跡であっても1度でも見たら神様を信じて、改めて人間の身勝手さ、頑なさを感じました。

イエス様が、「あなたはペトロ。わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てよう」とおっしゃいました。また、ペトロも、「あなたのためなら命を捨てます」とイエス様に告白しました。そのペトロでさえ、いざ自分の身に危険が及びそうになると、鶏がなく前に3度もイエス様を知らないと言って裏切りました。

今私は、クリスチャンとして生かされていますが、命に係わるような大きな試練に合った時、信仰によって平安でいられるか心配です。

神様は、イスラエルの人々に先立って進まれ、昼は雲の柱で導き、夜は火の柱で照らされたので人々は進むことができました。

これからも、昼も夜も、いつでも守り導いてくださる神様を信じて進みたいと思います。



「コロナと私」

園田 洋子

初めてコロナウィルスのことを知ったのは去年の1月でした。中国の武漢が発生源でしたが、10年前のSARDSと同じように、急拡散しても、いつの間にか収まるだろうと高をくくっておりました。ところが、あっという間に世界中に広がり、娘たちの住むイギリスでもロックダウンが行われ、日本でも緊急事態宣言が何度も発令されるようになり、私の生活も一変しました。



嬉しそうに「ありがとうございます」と答えてくださいます。三鷹周辺には実に多種多様の野鳥が住んでいることも発見でした。野鳥達はいつも同じ鳴き声をするのではなく、友達を呼ぶ声、危険を知らせる声などいろいろな鳴き分けられているのも分かるようになりました。口笛の上手な主人が呼びかけますと鳥達も返事をしてくれるのです。



以前は毎年イギリスの次女のところに行き、3人の孫たちの成長を共に楽しんでいましたが、あれ以来一度も飛行機には乗っていません。それどころか電車もバスも怖くて乗れなくなっていました。お友達と美味しいものをいただいて、何時間もおしゃべりをする楽しみもなくなりました。フィットネスクラブで泳いだり、ヨガで汗をかいいたりすることもできなくなりました。

でも、このままコロナに負けるわけにはいかない、こういう時だからこそできることを探して見ようと考えました。そしてまず始めたのが「主人と毎日1万歩」です。主人も何かと忙しい人なので、それまでは偶に一緒に散歩しても、毎日という訳には行きませんでした。でもコロナのお陰で、毎日毎日一緒に散歩するようになりました。家の近くにはいろいろ緑深い場所があります。神代植物公園、深大寺、野川公園、武蔵野公園、多摩墓地などなど。我が家の周りの街並みも全て歩きました。きれいに丹精されているお庭も沢山見つけました。あまり近づかないように気を付けながらも。「よくお手入れされていますね」などと声を掛けると、



もう一つコロナのお陰でよいことがありました。私はインフルエンザに弱く、毎年同居している長女の孫達からうつされていたのですが、人と会わず、マスクをつけ、手洗い、嗽、アルコール消毒を欠かさず生活しているので、去年の冬も今年の冬もインフルエンザどころか風邪も引いていません。

コロナは本当に厄介ですが、このようにコロナだからこそ与えられた恵みにも感謝して、毎日楽しく生きていこうと思っています。



近くの神代植物公園で撮った薔薇の写真

「30年来のご縁とお導き」

森 敬子

去る6月8日は婚約記念日だった。30年前、金沢文庫教会で婚約式を挙げていただいた。その年のイースターに受洗したので「おめでたいことが二つも続いたね。」と教会の方が声をかけてくださった。当時の私の写真を見て、息子が「人に歴史ありだね。」と言ったが、今よりはスマートだった。

結婚生活30年の間に引っ越しも多かった。埼玉、栃木、アメリカUS、中国CN、タイTHに住んだ。

コリント第1の手紙 第13章の愛の聖句を抜粋してみた。

2節 預言力、奥義、知識、強い信仰も愛がないなら無に等しい。

4-7節 愛の定義

愛は寛容であり、情深い。またねたむことをしない。愛はたかぶらない、誇らない。不作法をしない、自分の利益を求めない、いらだたない、恨みをいだかない。不義を喜ばないで真理を喜ぶ。そして、すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてを耐える。

8節 愛はいつまでも絶えることがない。しかし、預言はすたれ、異言はやみ、知識はすたれるだろう。

9-12節 私たちの知るところは一部分であり、預言するところも一部分にすぎない。全きものが来る時には、部分的なものはすたれる。

13節 信仰と希望と愛がいつまでも存続し、もっとも大いなるものは、愛である。

私たちの毎日が愛の力で移り変わっていているはずなら美しい日々だが・・・？

宣教師さん、レスリー・ターリー先生から

キリスト教が愛の宗教であると教えられた懐かしい昔を思い出した。

私は中学・高校を関東学院六浦で過ごした。白根先生、大井先生に授業でお世話になり、購買部では梅谷道子さんにもお世話になった。

それから犬塚先生にはバイブルクラスでお世話になった。

母がクリスチャンであり、聖書は身近なものであった。また父が関東学院の教員でもあった。その父が私の大学卒業後亡くなり、白根先生にお世話になり、私が金沢文庫教会に来るようになった。

横須賀に亡き実母の家が残っている。遺品整理がなかなか終わらない。私の両親と義母をキリスト教式で葬った。実母の葬儀の際には白根先生が横須賀の教会にいらしてくださった。実母の納骨にも白根先生と久保田氏がいらしてくださった。

金沢文庫教会には両親を知っている方がいたり、両母親と夫と訪れた私の子育て時代を見守ってくださった方がいて、懐かしい思い出がある。

自分が中学から大学までミッションスクールで生活していたが、家庭生活、子育てで愛の実践ができたかは疑問である。

かつて金沢文庫教会で幼児祝福式をして頂いた息子たちのことは、今は「失敗は成功のもと」のことわざを励みにし、もう成人してしまったのだから神様にお任せするしかない状態である。

30年間、金沢文庫教会は時には週報やあかし
びとを送り続けてくれた。長いお付き合いの教
会である。森島先生ご夫妻になってからは新会
堂となり、コロナ禍にあってもスマホでメッセ
ージを聴けるようになり、遠方にいる身であっ

ても礼拝参加できたのが良かった。ギリシア語
のお話も勉強になる。森島先生ご夫妻や兄弟姉
妹の方々が金沢文庫教会のおおいなる愛の存
続の燈が絶えずにともるようご尽力なさって
いてくださっているのには感謝です。



「涙！神がくれた癒し」

白井 豊子

◎号泣の涙

20年以上前の事である。

息子が六年生の時であった。息子の問題に
悩み、カウンセラーに相談したことがあっ
た。

息子を育てていく上での自分の悩みを語る
ことになった。しばらく語った時、カウンセ
ラーが一言、

「苦労なさいましたね」

と、声をかけてくれた。

その時、思いもかけず、号泣した。声も涙
も止まらず、とどめることができなかった。

やっと心が静まった時

「息子はもっと苦しかっただろうに」

と、降ってくるようにその想いがわいてき
た。

辛かった事も涙で浄化され、心が解放され
たのだ。その時光が飛びこんで来て、他者へ
の痛みにも触れることができたのだ。

◎静かな涙

つい最近のでき事である。静かな涙をなが
したことがあった。

涙！他者の悲しみの話を聞いた時、自然に
落ちてくるものだ。

身内の思いがけない死に出あった方の話を
たて続けに三度も聞いた日があった。

母の死、お産による妹の死を、ある方から聞いた。その一時間後、親よりも先に旅立った娘さんの死の話を聞いた。気丈にふるまわれているお母さんからの話であった。思わず涙がこぼれた。



涙は言葉にならない真の想いを伝えるものであり、人との絆をつくったり、人に癒しを与えたりするものだ。

涙は神様がくれた贈り物だ。



「今度はあなたが」 ルカによる福音書 22 章 32 節

山田 三千江

高校生の時、バイブルクラスに行って、このみ言葉「しかし、わたしはあなたのために、信仰が無くならないように祈った。だから、あなたは立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。」を教えて頂きました。そしてこの言葉が私の心に鮮明に蘇ってきたのが、何十年もたった後の東日本大震災の時でした。ちょうどその時、私の家族はみんな家において、2階の礼拝堂では合唱のグループが練習をしていました。夫が「津波が来る！すぐ逃げるように！」と2階の皆さんを誘導しました。時間が早かったので、皆さんは乗ってきた車に便乗してお帰りになりました。2人だけ残ってしまったので、私の車で送っていくことにしました。それと同時に主人と娘は大事な物を車に積んで、少し離れた地区会堂に避難することにして、私たちはそこで待ち合わせしました。私の車の中では、一人の方は「もう世の終わりだわ！こんなことがおこるなんて神様なんていない！」と叫んでいま

した。走っている途中にも、地震があり、家の窓ガラスがガチャガチャと割れて落ちるのが見えたり、車が大ゆれする時もありました。主人と娘に落ち合った時は、「まだ、生きてる。世の終わりではなかった。」と思いました。津波からは安全な地区会堂に避難し、幼稚園の園舎で、家に帰れなくなった先生方、お迎えが来ない園児、避難所で過ごすことがむずかしい障害のある園児の家族など 20 数名で避難生活をしました。この方々は少しずつ日ごとに減っていきました。バプテスト同盟の先遣隊が、教会の被災状況を聞きに来てくださいました。それから、ボランティアに様々な方々が来て下さいました。私はボランティアに来て下さった方々を見て、今度は自分がボランティアをしたいと思います。ボランティアの皆さんによって励ま



れ、震災は確かに大きな悲しみだけれども、多くのあたたかいところが目の前にあると思ったからです。地震の時、私は車の中で「もう神様もいない！世の終わりだ！」という声を聞きましたが、**神様は生きて働かれ、今ここにいます！**と私は思わずにはいられませんでした。それで、仮設住宅の集会所でお茶の会を毎週することになり、被災者の皆さんと共に過ごす時間を頂きました。

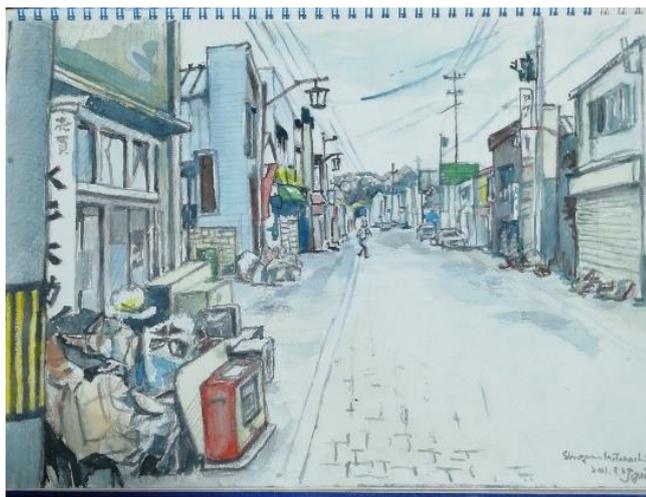
7年たったある時、仮設住宅のお茶の会に来ていた方に偶然スーパーで出会いました。「生活も落ち着いたから、**今度は私が地域の皆さんのために何かしたい。**」とおっしゃるのです。その女性は「子どものたちのために、こども食堂をしたいの。」と私に話しました。数日後また、違う方とスーパーで出会い、「子どもたちに、絵本を読んであげたい。」とおっしゃるのです。私は、お茶の会で、彼女たちから涙の被災体験を聞いていたので、びっくりしました。そして、にこにこ私に話す彼女たちの言葉が迫ってきました。「**今度は私も、**たくさんの励ましを下さった神様のために働こう。そしてたくさんの

励ましを下さった方々にありがとうを伝えよう。」と思いました。神様はこのことを受け止めて下さり、私は神学校に導かれました。それから、宮城から神学校に通う生活が始まりました。しかし、6月主人は突然天国に旅立ちました。私は現実を受け取ることができませんでした。

どうしていいかわからなくなる時、不思議と震災からボランティアで知り合ったクリスチャンたちが、順に電話をかけてくれたり、メールを送ってくれたり、こういうことが何度もありました。

神様は夫が亡くなる前から、**私がかじけないように、信仰を失わないように、特に震災の後、**たくさんのクリスチャンに出会わせて下さっていたことを、知りました。すべてをご存じである神様は信仰がなくならないように、先に準備をなさっていました。これからも、神様の愛の中で、神様の示されるように、歩んでいきたいと思っています。

(証し：2021年5月30日礼拝での証し)



夫山田崇浩画：2011年東日本大震災直後の本町会堂からの風景
左下見えるのは廃棄電化製品のゴミの山

「ギリシャ語の学びとミャンマー人神学生との出会い」

石川 万奈美

私は昨年、神学校でギリシャ語の授業を聴講しました。新型コロナの影響で授業開始は2ヶ月遅れのスタートとなりましたが、私は初回出席した後に体調不良で前期講義を欠席する事になってしまいました。不安の中、担当の森島恵先生に、遅れをとらないようにサポートしていただきながら、後期授業より本格的に勉強をはじめました。そして、ギリシャ語を学ぶ楽しみを知った私は、再び今年度も一からやり直すつもりでギリシャ語クラスを聴講することにしました。

初年度、最初にテキストを見た時に全くわからない！難しすぎる！とんでも無いことにチャレンジしてしまったのでは、と不安になりました。外国語で言うと英語仕様に慣れてしまっている私は困惑することばかりでしたが、調べてみると新約聖書の中で使用されている文字は24文字でした。数学授業で目にした α 、 β 、 γ 、 Σ 、 ω 、などが出て来たのは大変な驚きでした。

今、私達はこのギリシャ語聖書を日本語訳した聖書を読んでいます。これらの翻訳は翻訳者の解釈が含まれており、読む私たちには原典の深い情景まで汲み取る事は出来ないことが分かりました。確かに日本語訳で、あっさりと言われているものが原典では何と味わい深い内容に変わることか、と感動しました。これについてすべて書き出すことは、ここでは出来ないのですが、唯一この箇所をご紹介します。

〈カタフィレオー〉という言葉です。有名な放蕩息子の例え話です。

ルカ 15：20 には日本語訳で「走り寄って彼を抱きくちづけした」と書かれています。然し、語の原形〈カタ+フィレオー〉は、もう、愛しくて愛しくて仕方なく〈何度も何度も繰り返し口づけした〉となります。息子が帰ってくるのを毎日毎日外に立って待っていた父親の姿は、さらりと書かれた日本語訳からは浮かんでこない情景です。語尾変化や、一つの単語でその時の様子が詳細にわかるのです。

コイナーギリシャ語は何と合理的で素晴らしい表現力をもっているのかと思わずにはいられません。聖書の原典を忠実に読む喜びと楽しさはあるのではないかと思います。

このギリシャ語の講義には、昨年も今年もミャンマーからの神学生が数人います。この神学生達はとても熱心です。ミャンマーから来てテキストの中の日本語でさえ難しいのに、日本語をクリアして、そして、聖書のギリシャ語を勉強していくのです。神様が真ん中に立ってくださり導いてくださる授業を誰よりも感謝して向きあっています。そして、今のミャンマーの情勢を日本に伝え、母国ミャンマーを想起し、一日も早いミャンマーの少数民族の平和を祈っておられます。日本にいと、勿論様々な困難災難がありその悲しみや苦しみは計りしれません。日本人である私は、平和の有り難さを当たり前として生活し、今日も明日も明後日も、そういう日はこないとなぜか確信しています。変わることがないと。

しかし、少し離れたミャンマーの国では、毎日が「変動」なのです。少数民族の人たちは寝る所も食べるものもなく、子ども達は学ぶことさえ出来ずに、山の間の木の陰などで泥にまみ

「約束の力」 使徒言行録 1：3－8

エルセンサン (ミャンマー人神学生)

復活の主イエス・キリストは四十日にわたって使徒たちに現れ、神の国について話をされました。その時に話された、神から約束された『約束の力』についてお話しを致します。神様が私たち人類の救いのため、御子主イエスを地上に送って、私たち救いのために苦しみを受けて十字架にかかれ、復活されました。神様は御子主イエスによって『聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。』と約束されました。



使徒言行録 1：8 「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる。」

ここには神様の『約束の力』つまり、『聖霊の力』『主イエス・キリストを死からよみがえらせた聖霊』は、『地の果てに至るまで、神様の証人となる。』ために、明確に書かれています。新約聖書には、旧約聖書で神様から与えられた『約束の力』がペンテコステの日に降されたこと記されています。ヨエル書 3：1－2

「その後、わたしはすべての人にわが霊を注ぐ。あなたたちの息子や娘は預言し、老人は夢を見、若者は幻を見る。」

この聖書箇所を読むと、険しい道より、花の咲いている道の光景が見えるようになります。

しかし、ヘブライ人への手紙 では、当時の信徒たちの険しい生涯が、はっきりと読み取れます。11：36－39 「また、他の人たちはあざけられ、鞭打たれ、鎖につながれ、投獄されるという目に遭いました。彼らは石で打ち殺され、のこぎりで引かれ、剣で切り殺され、羊の皮や山羊の皮を着て放浪し、暮らしに事欠き、苦しめられ、虐待され、荒れ野、山、岩穴、地の割れ目をさまよい歩きました。世は彼らにふさわしくなかったのです。ところで、この人たちはすべて、その信

仰のゆえに神に認められながらも、約束されたものを手に入れませんでした。」

主イエスの弟子たちも殉教しました。ローマ帝国の帝政後期、皇帝崇拜のもとで、キリスト教徒への弾圧が強まり、それは313年まで続きました。キリスト教徒が拷問にかけられ、鉄の椅子で焼き焦がされ、雄牛に角で突き上げられ、飢えたライオンに投げ与えられたなど、、、。ほかに、沢山あり、歴史が語っています。私たちの口では言えないことが世界中で、権力者によって今も行われているのです。私が選んだ、このヘブライ人への手紙11：36－39の箇所を皆さんは、ご存じでしょうけれど、あまりなじみがないかもしれません。私にとっては命の言葉です。自分の母国ではない日本で生きる私にとっては、とても励まされ、支えられている箇所なのです。

人間の歴史には勇士達、殉教者たちが多くいます。神を恐れ、神を愛し、神の御心に従って生きると言うのは、人間の力では不可能に近いと私は思っています。旧約聖書時代の預言者たちも、また、新約聖書の初代教会時

代の信徒たちも、確実に約束された神の力、聖霊の力、主イエス・キリストを死からよみがえらされた力で、、、生かされているから、神様の証人となって、今もなお闘い続けていることが明らかなのです。

つい最近、ミャンマー国軍から空爆されていたカレン族が、行き先もわからないまま逃げる途中、山中での礼拝している姿を動画で見ました。これはカレン語で、私も分かりません。でも理解できる言葉を越えている意味があります。どんな悲しみにも、どんな苦しみにも、耐えられる力『約束の力』を神様が与えてくださることを思い出したら、十字架の救いの恵みを日々感謝しないではいられないのです。このような礼拝の姿が、70年以上内戦が続くミャンマーのイエス・キリストを信仰する人がいる村の人々の日々の光景なのです。言葉で説明するより画像があって、良かったと思いました。貧しさの上に残酷な状態が重なり、その運命を、その状況を変えることができないのです。そして過酷な状況が今もなお続いています。いつかは必ず変わるとは思いますが、その残酷な状態の中でも礼拝が捧げられ、御言葉が届けられ、賛美があり、祈りが続けられているのです。これは神様の目がとどまるところです。しかし私にとっては残酷な光景でもあり、美しい光景でもあります。まるで300年以上、迫害されて荒野をさまよい、山、洞穴、地の穴で、信仰を守って生きていた初代教会の信徒たちと似ているようにも感じます。

今の民主化デモの騒ぎで、今まであったことのない程の犠牲になっているのは、結局少数民族たちの所です。それは避けられないことかもしれないですが、そういうところで命を落された人たちの人数は、世界に発表されている犠牲者800人以上には、数えられていません。毎

日、空爆を受けて亡くなった人びと、内戦に巻き込まれて死亡した人びと、人間の盾にされて亡くなった人びと、国軍の死亡者たちの人数が、これには含まれていません。

戦後から、内戦中のキリスト教信仰で育ってきた私たち多くの者は、ミャンマーから世界中に散らされています。もしミャンマーが平和の国であれば、私も日本に定住していなかったでしょう。アメリカにもヨーロッパにも教会があり、人がいないところでミャンマーから来たいろいろな民族たちの集まりが行われています。人様の国で生活すると、頼りとなるのは真の神様だけです。教会に集まって、神様に礼拝を捧げるときだけが心が静まり、安らかになる時です。



皆さんは今のミャンマーの民主化のデモ、これを許さない国軍の行為などに目線が向いていますが、これはつい最近起きた騒ぎではありません。それでもずっと、ひどい迫害中にも命がけの福音伝道が続いています。そして、主イエスを救い主と信じる人々の数がだんだん増えています。軍事政府、しかもこのミャンマーの国民89%、90%くらいは仏教徒です。敬虔な仏教徒が多いのです。政治的に見ても、宗教的に見ても、ミャンマーで福音伝道するのは非常に大変なことです。しかし、ミャンマーでの宣教に目を向けてみたら、内戦と貧困の中でも神様の『約束の力』が働いてくださっていることが見えるはずです。

私は2019年3月、神学校の夏休みの時に3週間ミャンマーへ帰りました。そこで『私は、

10年ほど前は敬虔な仏教徒でした、今は、十字架にかけられ復活された主イエス・キリストの福音を携えて、村々を回って伝え続けています。』と証しされたミャンマー人の年配の伝道者と会いました。話し方で彼は、敬虔な仏教徒であったのだと分かります。私は、嬉しくて主を賛美しました。私の妹もミャンマーに帰って行った時は、仏教徒のシャン民族に福音伝道している所で、お手伝いをしています。マタイによる福音書に「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」と、主が約束をされました。その約束のとおり、ミャンマーでの内戦、あるいは戦火戦乱中「主は、いつも共にいる。」のは確実に明らかです。

それで、世界が「東南アジア最後のフロンティア」と言われる国、かわいそうな国だという言葉で判断するのは不十分だと思います。霊的な目でミャンマーを観察して見てください。十字架にかけられ、復活された主イエス・キリストの福音の栄光が見られます。私は日本バプテ

スト神学校に入り、神学校の先生方の歩み、関東学院教会の実習、そして今年は大師新生教会で実習させていただいています。十字架の死を超えて、今も聖霊の力『約束の力』が働いておられることを神学生として証しさせていただいています。

讚美歌21の469番は、ドイツのナチズムに抵抗し、1945年に戦争が終わる前まで強制収容所に入れられ、39才で、その命を奪われたディートリッヒ・ボンヘッファー牧師がつくった詩です。収容所の中で書いた日記を元に作られた詩です。ボンヘッファー牧師の信仰をたどりながら賛美したいと思います。彼も、神様の『約束の力』に支えられて、主イエス様の証人となって、生きた人だと思います。

私は、主イエスのように生きる力こそが、神様から与えられた『約束の力』だと思います。神様は、その『約束の力』を、今の私たち一人一人にも与えて下さって、今ここに生かされていると信じています。(2021年6月16日)
(日本語協力 石川 万奈美)

讚美歌21 469

- | | | |
|--|--|--|
| 1 善き力に われかこまれ、
守りなぐさめられて、
世の悩み 共にわかち、
新しい日を望もう。 | 3 たとい主から 差し出される
杯は苦くても、
恐れず、感謝をこめて、
愛する手から受けよう。 | 5 善き力に守られつつ、
来たるべき時を待とう。
夜も朝もいつも神は
われらと共にいます。 |
| 2 過ぎた日々の 悩み重く
なお、のしかかるときも、
さわぎ立つ 心しずめ、
みむねにしたがいゆく | 4 輝かせよ、主のともし火、
われらの闇の中に。
望みを主の手にゆだね、
来るべき朝を待とう。 | |

「ミャンマーの神学生」

島田 正敏

ミャンマーでは、今年の2月に国軍によるクーデターが起きました。アウンサンスーチー氏は、軟禁状態になり、国軍により多くの国民が殺されました。今も不安定な情勢が続いています。

私たちは、2013年、タイ北部のチェンライの国境からミャンマーに入国しました。タイのカレンバプテスト同盟の牧師先生に案内していただきました。タイの国境の町は、にぎやかで音楽が流れていました。小さな橋を渡ってミャンマーに入国しました。すると今までの喧騒がまったくなくなりました。静かな国境の町です。電線はあるのですが、電気が来ていません。停電していました。私たちは車で国境を超えたのですが、ミャンマーに入国すると道路が穴だらけでした。まったく補修されていませんでした。静かで貧しい国という印象でした。

チェントンという町に向かうと数キロごとに検問所があります。そこで毎回お金を徴収されます。山道を走りましたが、人々は山の頂上まで野菜を植えていました。たまに日本の最新の出会うことがあり驚きました。牧師先生の話では、「日本製の高級車に乗っているのは、軍の幹部かマフィアの幹部です。」とのことで

した。マフィアはケシの栽培や覚せい剤の販売で巨額の利益を得ているそうです。

私たちはチェントンの神学校を訪問しました。教会と男子寮、女子寮がありました。建物は古く、補修した形跡がありません。傾いている危険な建物もありました。ミャンマーは仏教国ですが、1810年代にアメリカバプテストの牧師によって宣教活動が行われました。その時に多くの神学校が設立されたそうです。その後アメリカからの支援はほとんどなくなったようです。神学校では20名ほどの学生が学んでいました。半数が女性でした。壊れそうな神学校で意欲的に聖書を学んでいました。寮も古くて補修されていないので倒壊が心配になるほどでした。ミャンマーの神学校で学んだ牧師先生は、タイ北部で宣教活動をしたので、チェンライ、チェンマイには多くの教会が建てられました。タイにある難民キャンプの中にもバプテストの神学校があります。

ミャンマーが民主的で安定した国になるように祈ります。

女子神学生



女子寮の前



チェントン村の子供たち

バプテスト神学校（アカ族）



神学校の先生方と私たち



先生方の家（給料は 1,500-3,000 円）



チェントン村の小学校

「コロナ禍まん延中に学ぶ」

犬塚 志朗

論語、孔子の言葉（意識）によると「15にして学を志す、30にして立つ（自立行動し）、40にして惑わず（変な拘りをもたず）、50にして天命（与えられた使命）を知り、60にして耳に順（したが）う（素直に人の意見を訊くようになり）、70にして人の道はずさなくなる」とのことです。

悲しいかな 78 歳を迎えた私は未だに焦りを感じ、狼狽え、躓くことが多々あります。本来ならば信仰心篤く、残りの生涯を、神様にお任せしますと祈り、落ちついた人生を過ごすべき年齢なのに… 残念です。

焦りと狼狽えを少しでも和らげるために慰

めの聖句を探してみました。(聖句は口語訳聖書で引用してあります)

◎後期高齢者の人生終盤の生活…夢をみながら…

使徒行伝 2:17b (予言者ヨエルのことば)
若者たちは幻を見、老人たちは夢を見る
ヘブル書から

11:13 これらの人はみな、信仰をいだいて死んだ。まだ約束のものは受けていなかったが、はるかにそれを望み見て喜び、そして、地上では旅人であり寄留者であることを、自ら言いあらわした。

◎主の訓練を軽んじてはいけない……、鍛えられるものは平安な義の実を結ぶ
ヘブル書

12:2 信仰の導き手であり、またその完成者であるイエスを仰ぎ見つつ、走ろうではないか。彼は、自分の前におかれている喜びのゆえに、恥をもいとわないで十字架を忍び、神の御座の右に座するに至ったのである。

12:3 あなたがたは、弱り果てて意気そそうしないために、罪人らのこのような反抗を耐え忍んだかたのことを、思いみるべきである。

12:4 あなたがたは、罪と取り組んで戦う時、まだ血を流すほどの抵抗をしたことがない。

12:5 また子たちに対するように、あなたがたに語られたこの勧めの言葉を忘れていない、「わたしの子よ、主の訓練を軽んじてはいけない。主に責められるとき、弱り果ててはならない。12:6 主は愛する者を訓練し、受け入れるすべての子を、むち打たれるのである」。12:7 あなたがたは訓練として耐え忍びなさい。神はあなたがたを、子として取り扱っておられるのである。いったい、父に訓練されない子があるだろうか。12:8 だれでも受ける訓練が、あなたがたに与え

られないとすれば、それこそ、あなたがたは私生子であって、ほんとうの子ではない。

◎ヘブル書 12:11 すべての訓練は、当座は、喜ばしいものとは思われず、むしろ悲しいものと思われる。しかし後になれば、それによって鍛えられる者に、平安な義の実を結ばせるようになる。



◎ロマ 5:3-5b それだけではなく、患難をも喜んでいる。なぜなら、患難は忍耐を生み出し、忍耐は錬達を生み出し、錬達は希望を生み出すことを、知っているからである。そして、希望は失望に終ることはない。

.....

大学生時代、私の生まれ故郷、愛知県碧海郡の『ど田舎』から遠路はるばる箱根湯本の温泉宿までやってきての2泊3日のケズィックコ



ンベンション(超教派の教職者、信徒、宣教師のクリスチャン修養会)に参加したことがあります。誰と一緒に、どのようにして参加したのか、ほとんど何も記憶に残っていませんけれど、海外から神学者を招いての講演会で、覚えているのは平信徒である私たちは大広間で座布団に坐り、教職者や宣教師の方々は背後で椅子やテーブルに坐ったり、立ったままでの参加。そして講壇の背後には”All One in Christ Jesus”

「みなキリストにあって一つ」との横長の大きな垂れ幕が目立っていました。

テキストはヤコブ書でした。

ヤコブ 4：1-11

あなたがたの中の戦いや争いは、いったい、どこから起るのか。それはほかではない。あなたがたの肢体の中で相戦う欲情からではないか。あなたがたは、むさぼるが得られない。そこで人殺しをする。熱望するが手に入れることができない。そこで争い戦う。あなたがたは、求めないから得られないのだ。求めても与えられないのは、快樂のために使おうとして、悪い求め方をするからだ。不貞のやからよ。世を友とするのは、神への敵対であることを、知らないか。おおよそ世の友となろうと思う者は、自らを神の敵とするのである。それとも、「神は、わたしたちの内に住ませた霊を、ねたむほどに愛しておられる」と聖書に書いてあるのは、むなしい言葉だと思ふのか。しかし神は、いや増しに恵みを賜う。であるから、「神は高ぶる者をしりぞけ、へりくだる者に恵みを賜う」とある。そういうわけだから、神に従いなさい。そして、悪魔に立ちむかいなさい。そうすれば、彼はあなたがたから逃げ去るであろう。神に近づきなさい。そうすれば、神はあなたがたに近づいて下さるであろう。罪人どもよ、手



をきよめよ。二心の者どもよ、心を清くせよ。苦しめ、悲しめ、泣け。あなたがたの笑いを悲しみに、喜びを憂いに変えよ。主のみまえにへりくだれ。……

ヤコブ書はルターが、藁の様に燃やしてしまえばよい、と言って聖書から外そうとした、「藁の書簡」と呼ばれているとのこと。が、50数年も経ったのに未だにこのコンベンションでの日本語通訳者の聖書朗読。この箇所を朗々と読み上げる声が私の耳元で響いているのは何故でしょうか？何か意味があるかもしれません。わざわざ海外から神学者を講師として招いてのこの修養会では、聖霊に満たされた雰囲気味わいましたが、内容で記憶に残っているのはたったこれだけなのです。

私は今まで神様の御祝福の下、苦勞することなく甘い夢のような78年を過ごしてきた、と思っています。ポストコロナ、アフターコロナの新しい世界が生まれるまで、「苦しめ、悲しめ、泣け、…笑いを悲しみに、喜びを憂いに変えよ…」これが今しばらく私の今後の生き方かも知れません。



ペンテコステ

羽入田悦子

バプテスト・デー猫たわむれる異人墓
受難節手のひらの棘抜けぬまま
鐘の音のさまよう夕べ聖金曜
復活祭パン焼く香り地に満ちて
小鳥来るペンテコステの礼拝堂



「主の山に備えあり」

創世記 22 章 1 - 14 節

I コリントの信徒への手紙 10 章 13 節

森島 恵 牧師

人生には「試練」として受け止めなければならぬ時があるものです。健康上の問題や経済問題、あるいは人間関係の悩み、そして深刻な試練、信仰そのものが試されるような試練に遭遇しながら、紆余曲折を経て現在に至っている私たちです。今なお苦しみの中に置かれている方もあるかも知れません。

2021年度の主題として与えられた「**主の山に備えあり**」の聖句は、聖書の中でもこれほど過酷な神の試みは少ないのではないかとされている創世記のアブラハムの物語です。読んでいて胸が苦しくなるほどです。聖書の中で「**信仰の父**」と呼ばれるアブラハムですから、その人生は失敗もなく平穏無事、悩みや破綻など不幸なことは皆無だろうと思われるかも知れません。しかし決してそんなことはありません。

神から住み慣れた土地を出るよう命じられたアブラハムは、そのとき75歳でした。彼は住み慣れた父祖の地を離れ、行く先を知らずに主の言葉に従って旅立ちました(創12:4)。アブラハムを「**祝福の源とする**」との神の約束が果たされ、アブラハムとサラの夫婦に待望の男の子イサクが誕生するまでの25年の年月が流れました。この時アブラハムは100歳になっていました。

この数年後のこと、聖書には「**神はアブラハムを試された**」とあり、『**あなたの息子、あなたの愛する独り子イサクを連れて、モリヤの地に行きなさい。わたしが命じる山の一つに登り、彼を焼き尽くす献げ物としてささげなさい。**』と記されています。あまりにも惨い神の命じら

れた言葉に一睡もできなかつたであろうアブラハムは、神に一言も問い返すことなく、次の朝早くイサクを連れ、ろばに薪を載せて神の命じられた山に向かいました。重い足取りの三日の道を経て目的の場所が見えると、彼はイサクに薪を背負わせ、自分は火と刃物を持って二人だけで山を登って行きました。途中、イサクが「**わたしのお父さん**」と呼びかけ、「**燔祭用の小羊はどこにいますか**」と尋ねます。アブラハムは「**わたしの子よ、焼き尽くす献げ物の小羊はきっと神が備えてくださる。**」と答えています。絶望的な状況の中、それでもアブラハムは神への希望を捨てず、必ず「**神は備えてくださる**」との確信を持って愛する息子イサクの問いに答えたのです。この後の彼の歩みは神信頼の決意と共に確実なものであったに違いありません。そして確かに山には燔祭のための雄羊が備えられていました(同22:1-14)。

信仰に生きる者にとって本当の希望は、すでにそれは用意されているという「**摂理信仰**」に生きることにあります。アブラハムはこの摂理信仰によって神が備えてくださることを確信したのでした。パウロは「**あなたがたを襲った試練で、人間として耐えられないようなものはなかつたはずですが。神は・・・試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていてくださいます。**」(Iコリント10:13)と書き記しています。凄まじいまでの試練に耐え抜いたアブラハムの信仰。この「**主の山に備えあり**」が私たちの教会の2021年度主題聖句として提案されたことは、この信仰に立ち返るべきことを私たちに示唆して

いると思うのです。私たちの信仰は私たち自身がどうなるようになるではなく、たとえ試練・艱難に遭うことがあっても、神が一人一人に最善の道を備えていてくださること、すなわち「主の山に備えあり」を信じて生きることです。この信仰を持つ教会の一人ひとり

として、この困難な時代の只中を共に力強く歩んでいきましょう。

(説教要約 羽入田悦子)

「では、これらのことについて何と言ったらよいだろうか。もし神が私たちのみかたであるならば、だれが私たちに敵対できますか。私たちすべてのために、その御子をさえ惜しまず死に渡された方は、御子と一緒にすべてのものをわたしたちに賜らないはずがありませんか。」

ローマの信徒への手紙 8：31-32



教会学校礼拝、分級（主日礼拝・トーンチャイム練習・父の日カード作成・ゲーム）



分級（うちわの装飾）



トーン・チャイムクワイアー



主日礼拝



賛美礼拝（エルピス・バンド）



女性会例会



* 金沢文庫キリスト教会は、礼拝を YouTube Live で配信しております
<http://kanazawabunkochurch.sun.bindcloud.jp/WORSHIP.html>

* あかしびと 103 号のカラー版
教会ホームページ機関誌選択でご覧になれます



編集後記（広報委員会：犬塚記）

本年度主題聖句「主の山に備えあり」（創世記 2：1-14）を掲げて 4 か月を過ごしました。これまで私たちの教会では、コロナ禍蔓延の中、ウィーク・デーの行事を中止し、三密を避け、主日礼拝は少人数の出席者と You Tube 配信で守ってきました。その中でこの度、「あかしびと 103 号（夏季号）」を発行することにしました。私たちの日頃の信仰生活を皆様にご報告させていただきます。

皆様のご支援、お祈りを感謝し、神様の豊かな祝福がありますようお祈り申し上げます。在主